

# 令和6年度 県立病院の経営状況について

---

令和7年2月  
岩手県医療局

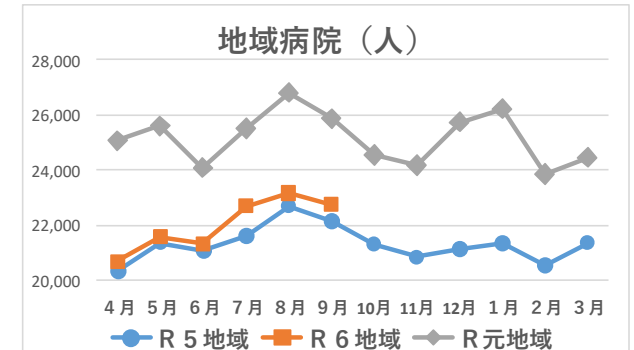
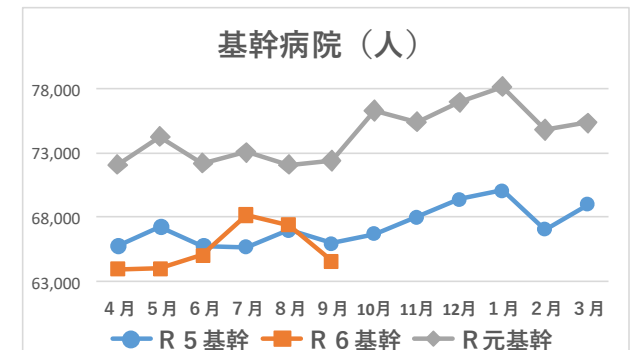
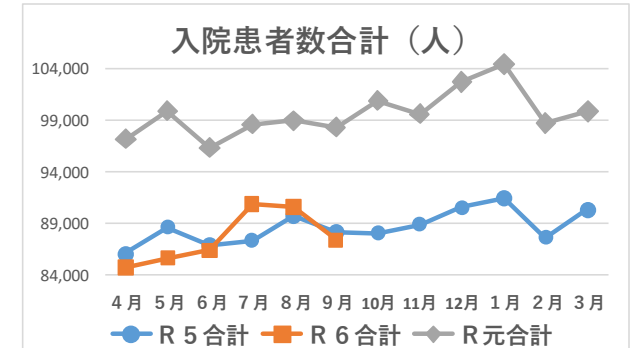
# 令和6年度上半期の経営状況について

- 上半期の入院患者数について、県立病院全体では前年度から横ばいであるものの、**基幹病院のマイナスを地域病院のプラスで補う形**となっている。
- 回復期病棟の需要は上昇している一方、**高度急性期・急性期病棟では患者数減少の流れが止まらず、急性期医療の経営状況が一層厳しくなっている。**

## 入院患者数の状況

(単位：人)

病院名	R元			R5			R6						
	年間患者数	上半期	(183日) 1日当	年間患者数	上半期	(183日) 1日当	上半期	(183日) 1日当	対R元年度		対R5年度		
		①	②		③	④			⑤	⑥	⑤-①	⑥-②	⑤-③
基幹病院	中央	210,492	102,182	558	185,581	91,693	501	88,410	483	△ 13,772	△ 75	△ 3,283	△ 18
	大船渡	94,858	46,473	254	80,117	39,014	213	40,236	220	△ 6,237	△ 34	1,222	7
	釜石	64,764	31,356	171	49,958	24,178	132	21,720	119	△ 9,636	△ 52	△ 2,458	△ 13
	宮古	80,856	39,175	214	70,647	35,164	192	32,664	178	△ 6,511	△ 36	△ 2,500	△ 14
	胆沢	101,524	50,193	274	99,719	47,847	261	45,862	251	△ 4,331	△ 23	△ 1,985	△ 10
	磐井	89,657	44,712	244	83,473	41,639	228	42,530	232	△ 2,182	△ 12	891	4
	久慈	71,049	33,408	183	58,889	29,066	159	31,973	175	△ 1,435	△ 8	2,907	16
	中部	120,956	58,504	320	125,572	62,245	340	61,834	338	3,330	18	△ 411	△ 2
二戸	58,881	30,114	165	53,551	26,463	145	27,842	152	△ 2,272	△ 13	1,379	7	
小計	893,037	436,117	2,383	807,507	397,309	2,171	393,071	2,148	△ 43,046	△ 235	△ 4,238	△ 23	
地域病院	遠野	29,311	14,658	80	24,608	12,572	69	12,913	71	△ 1,745	△ 9	341	2
	高田	10,112	5,570	30	10,869	5,554	30	5,904	32	334	2	350	2
	江刺	24,946	12,540	69	18,566	9,552	52	8,349	46	△ 4,191	△ 23	△ 1,203	△ 6
	千厩	36,468	18,583	102	27,679	12,231	67	14,349	78	△ 4,234	△ 24	2,118	11
	一戸	57,293	29,394	161	47,961	24,527	134	25,386	139	△ 4,008	△ 22	859	5
	大槌	10,360	4,933	27	6,216	3,302	18	3,805	21	△ 1,128	△ 6	503	3
	山田	8,044	3,847	21	7,134	3,841	21	4,315	24	468	3	474	3
	軽米	24,906	12,937	71	23,532	12,133	66	13,053	71	116	0	920	5
	大東	5,213	2,741	15	5,975	2,932	16	2,901	16	160	1	△ 31	0
	東和	19,163	9,981	55	17,029	8,620	47	9,253	51	△ 728	△ 4	633	4
	南光	76,049	37,717	206	66,048	33,892	185	31,918	174	△ 5,799	△ 32	△ 1,974	△ 11
小計	301,865	152,901	836	255,617	129,156	706	132,146	722	△ 20,755	△ 114	2,990	16	
合計	1,194,902	589,018	3,219	1,063,124	526,465	2,877	525,217	2,870	△ 63,801	△ 349	△ 1,248	△ 7	



# 令和6年度の決算見込

○令和6年度の決算見込額は、△90億5,200万円余と過去最大の赤字を見込み、資金ショートが避けられない状況。なお、令和元年度（コロナ禍前）との比較で見ると、**医業損益では赤字幅が104億円拡大する。**

## <原因>

- ①診療報酬が上昇しない中、医療の高度化で高額薬剤（抗がん剤等）や材料費が増加し、また、最低賃金の上昇や物価高騰により委託料等の経費が大幅に上昇している。
- ②国を挙げた賃上げの動きを受け、人事委員会勧告に基づく給与改定には、30億円が追加で必要となる一方、ベースアップに充当できる診療報酬は6億円に留まる。

診療報酬と費用に大きなギャップ

## 1. 令和6年度 決算見込[税込み]

(単位：百万円)

科目	令和元年度	令和5年度	令和6年度	元年対6年	5年対6年	備考
医業収益【A】	92,726	94,563	96,507	3,780	1,944	
医業外収益	17,078	22,249	17,657	578	△4,593	[ 医業外収益の減少 ]
収益合計【B】 (うち一般会計負担金)	109,805 (15,564)	116,951 (18,592)	114,163 (15,905)	4,359 (341)	△2,787 (△2,687)	① コロナ関係補助金 △15.9億円
医業費用【C】	106,932	117,711	121,106	14,174	3,395	② 一般会計繰入金 (コロナ・物価高騰)
医業外費用	2,383	2,119	2,110	△273	△10	
費用合計【D】	110,230	120,287	123,215	12,986	2,928	△26.7億円
差引損益【B-D】	△425	△3,337	△9,052	△8,627	△5,716	①+②=△42.6億円
医業損益【A-C】	△14,206	△23,149	△24,599	△10,393	△1,451	

## 2. キャッシュフロー計算書[R6決算見込み、次期経営計画]

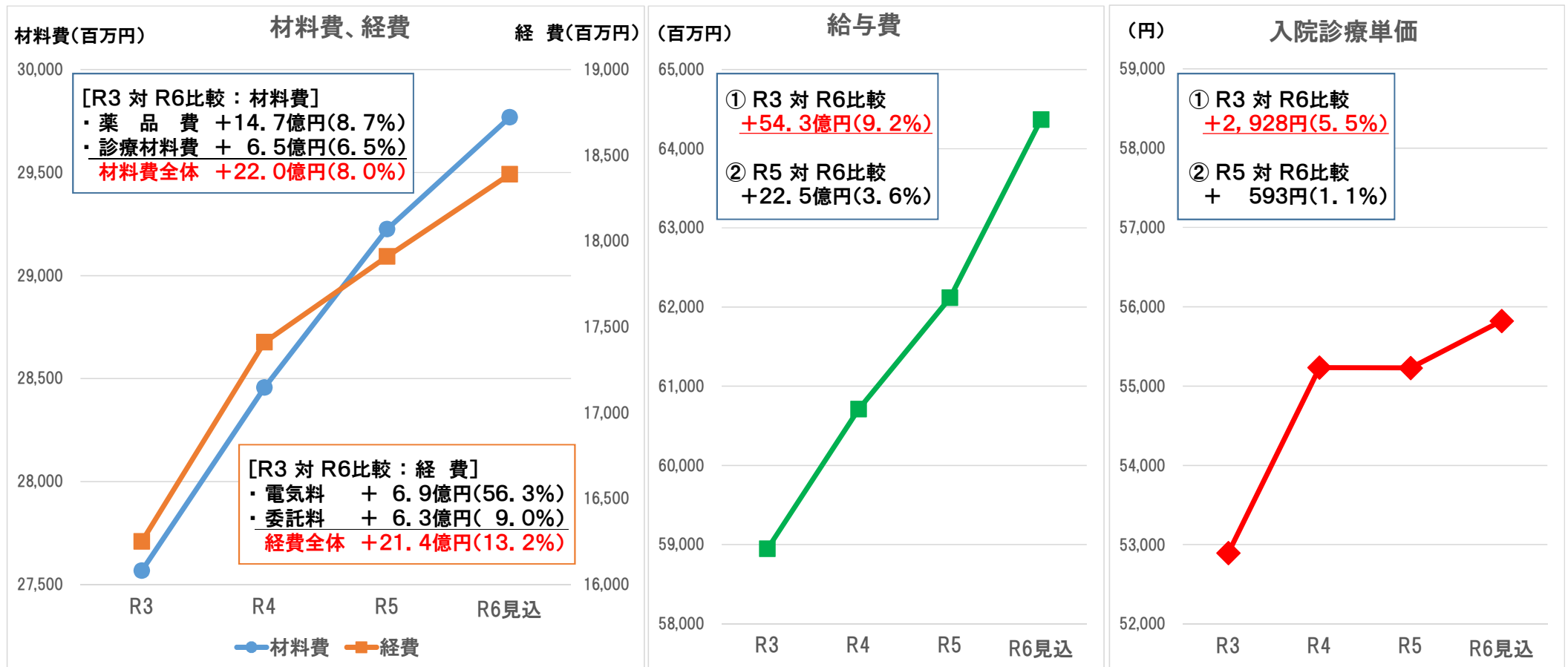
(単位：百万円)

区分	現経営計画期間		次期経営計画期間					
	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
資金期末残高	3,419	△1,185	△4,159	△6,006	△7,038	△7,053	△6,927	△6,229

# 経営悪化の原因①（人件費・物価高騰）

- 医業収益については、11月累計の入院患者数は前年同月比で1.1%増、診療単価では0.7%上昇と微増に留まり、収益の伸び悩みが継続している。
- 一方、費用面では、医療の高度化で高額薬剤・診療材料の使用量が増えたことや、人件費・物価高騰（コロナ禍における原油価格等の上昇）に伴う経費の増など、費用抑制の努力によって吸収できない科目が多く、**医業費用の増が医業収益の増を大きく上回る状況**となっている。

## ○ R 3 対 R 6 決算見込 [コロナ禍における人件費・物価高騰]



# 経営悪化の原因②（R6診療報酬改定）

○給与改定影響額は30億円と、近年、例のない規模となるが、その財源として設定された診療報酬（ベースアップ評価料）は6億円余に留まり、24億円のギャップが生じている。なお、令和7年度の影響額は更に拡大すると見込まれる。

## ■ベースアップ評価料（R6改定）

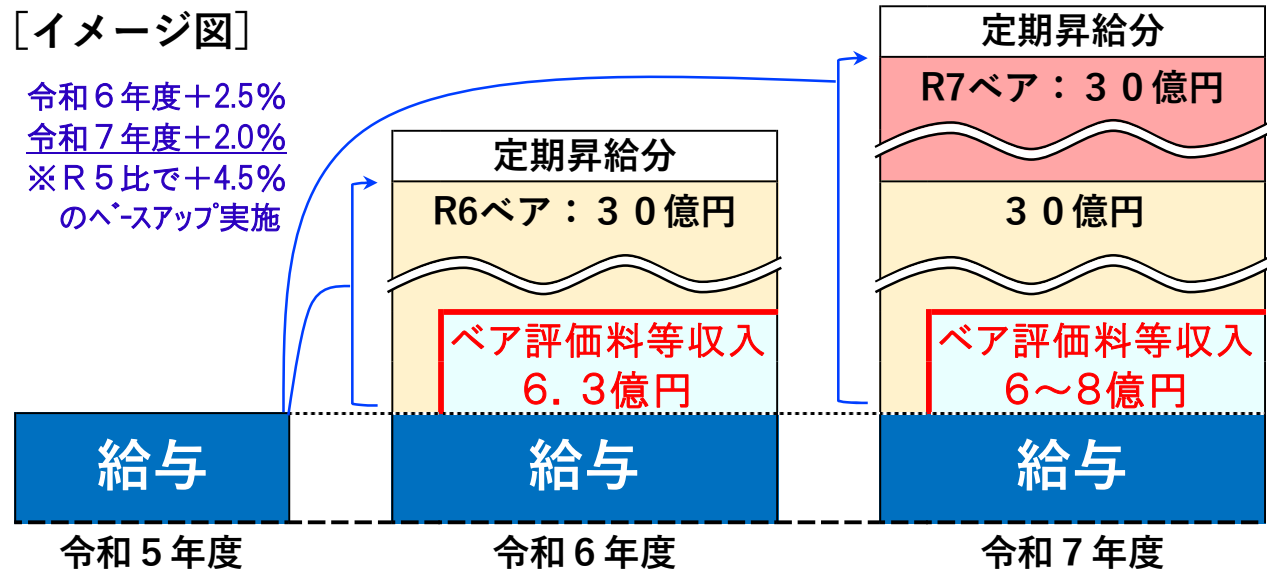
職員の賃金改善を目的に、診療報酬に加算算定できる新しい診療報酬

- ベア評価料等収入 : 6億3,700万円
- 給与改定所要額 : 30億1,300万円
- **差引（財源不足額） : △23億7,600万円**

※仮に、令和7年度の給与改定が、今年度と同規模なら、ベア影響額は**2年間で60億円**となる。

## [イメージ図]

令和6年度+2.5%  
令和7年度+2.0%  
※R5比で+4.5%  
のベースアップ実施



○令和6年度診療報酬改定の**全体の影響額**（ベースアップ評価料を除く）は、僅かなプラス（1.6億円）に留まっており、給与改定の所要額や委託料・経費の増を補うものになっていない。

## ＋ プラス改定（ベースアップ評価料を除く）

改定項目	増収見込（年／千円）
① 急性期看護補助体制加算	95,840
② その他施設基準取得関係	165,760
③ 指導管理料	131,775
④ 処置・手術等手技料	54,210
<b>合計</b>	<b>447,585</b>

## － マイナス改定

改定項目	減収見込（年／千円）
① 救命救急入院料1 ⇒ HCU入院医療管理料2	△93,310
② 指導管理料(特定疾患療養管理料)	△95,475
③ 検査・処方料等	△93,912
<b>合計</b>	<b>△282,697</b>

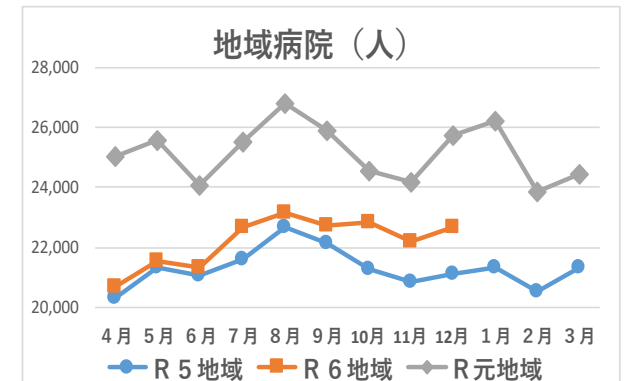
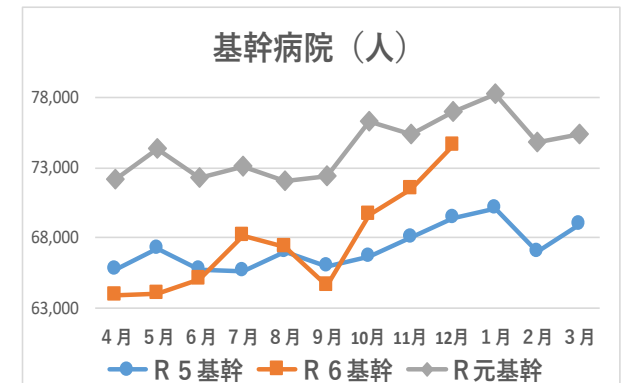
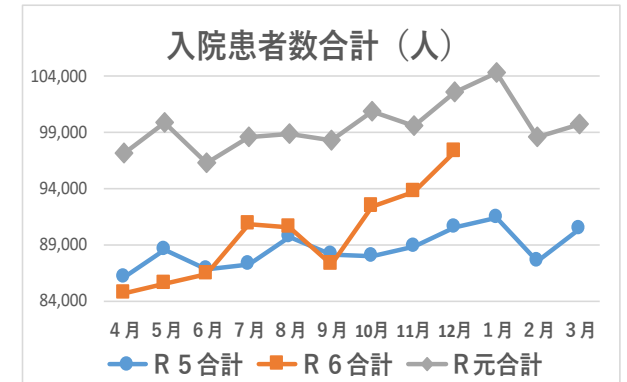
# 12月現在の経営状況（入院患者数）

○これまでの患者確保に向けた取組の効果が現れてきており、12月現在の入院患者数は、前年度と比較し、県立病院全体で約15,000人増加している。

## 入院患者数の状況（12月累計）

（単位：人）

病院名	R元			R5			R6						
	年間患者数	12月 (275日)	1日当	年間患者数	12月 (275日)	1日当	12月 (275日)		対R元年度		対R5年度		
		累計 ①			②		累計 ③	④	累計 ⑤	⑥	同期比 (⑤-①)	1日当 (⑥-②)	同期比 (⑤-③)
基幹病院	中央	210,492	157,667	573	185,581	138,778	505	137,968	502	△ 19,699	△ 71	△ 810	△ 3
	大船渡	94,858	70,508	256	80,117	59,143	215	60,794	221	△ 9,714	△ 35	1,651	6
	釜石	64,764	48,357	176	49,958	37,121	135	34,480	125	△ 13,877	△ 51	△ 2,641	△ 10
	宮古	80,856	59,675	217	70,647	53,116	193	51,302	187	△ 8,373	△ 30	△ 1,814	△ 6
	胆沢	101,524	75,508	275	99,719	72,804	265	71,504	260	△ 4,004	△ 15	△ 1,300	△ 5
	磐井	89,657	67,428	245	83,473	62,847	229	65,141	237	△ 2,287	△ 8	2,294	8
	久慈	71,049	51,981	189	58,889	44,252	161	49,261	179	△ 2,720	△ 10	5,009	18
	中部	120,956	89,768	326	125,572	93,805	341	93,975	342	4,207	16	170	1
二戸	58,881	43,851	159	53,551	39,524	144	44,295	161	444	2	4,771	17	
小計	893,037	664,743	2,417	807,507	601,390	2,187	608,720	2,214	△ 56,023	△ 203	7,330	27	
地域病院	遠野	29,311	22,526	82	24,608	18,779	68	20,146	73	△ 2,380	△ 9	1,367	5
	高田	10,112	7,653	28	10,869	8,143	30	8,897	32	1,244	4	754	2
	江刺	24,946	18,265	66	18,566	13,918	51	12,255	45	△ 6,010	△ 21	△ 1,663	△ 6
	千厩	36,468	27,870	101	27,679	19,823	72	21,728	79	△ 6,142	△ 22	1,905	7
	一戸	57,293	43,162	157	47,961	36,258	132	39,150	142	△ 4,012	△ 15	2,892	10
	大槌	10,360	7,777	28	6,216	4,775	17	5,695	21	△ 2,082	△ 7	920	4
	山田	8,044	6,004	22	7,134	5,529	20	6,335	23	331	1	806	3
	軽米	24,906	19,054	69	23,532	17,823	65	20,049	73	995	4	2,226	8
	大東	5,213	4,065	15	5,975	4,622	17	4,026	15	△ 39	0	△ 596	△ 2
	東和	19,163	14,424	52	17,029	12,852	47	14,142	51	△ 282	△ 1	1,290	4
南光	76,049	56,547	206	66,048	49,878	181	47,412	172	△ 9,135	△ 34	△ 2,466	△ 9	
小計	301,865	227,347	827	255,617	192,400	700	199,835	727	△ 27,512	△ 100	7,435	27	
合計	1,194,902	892,090	3,244	1,063,124	793,790	2,887	808,555	2,940	△ 83,535	△ 304	14,765	53	





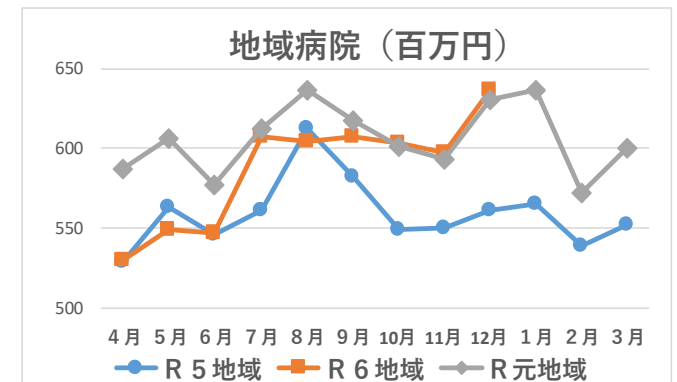
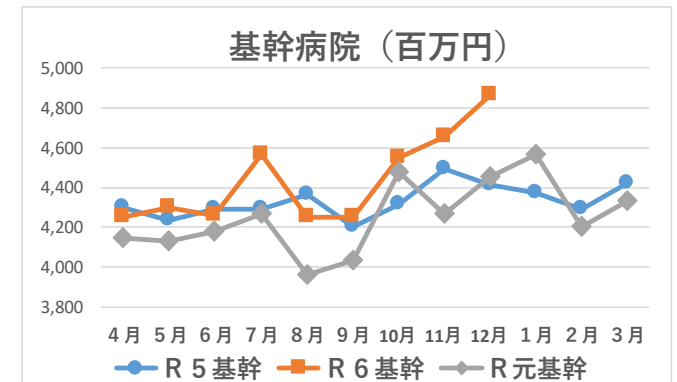
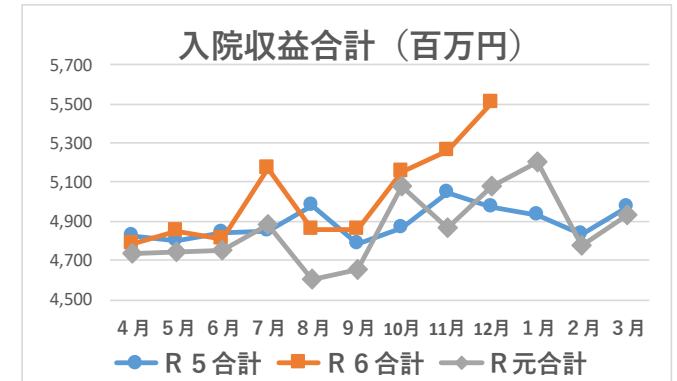
# 12月現在の経営状況（入院収益）

○入院収益も同様に、着実に取組の効果が現れており、前年度と比較し、県立病院全体で約1,265百万円増加している。

## 入院収益の状況（12月累計）

（単位：百万円）

病院名	R元		R5		R6			
	年間収益	12月累計 ①	年間収益	12月累計 ②	12月累計 ③	対R元年度 同期比 ③-①	対R5年度 同期比 ③-②	
基幹病院	中央	15,449	11,496	15,155	11,353	11,703	207	351
	大船渡	4,172	3,109	4,426	3,269	3,331	223	63
	釜石	2,529	1,892	2,342	1,751	1,654	△ 238	△ 97
	宮古	3,622	2,696	3,483	2,647	2,623	△ 72	△ 24
	胆沢	6,384	4,702	6,940	5,119	5,160	458	41
	磐井	4,985	3,721	5,550	4,198	4,388	667	190
	久慈	3,341	2,440	3,053	2,290	2,492	52	203
	中部	7,641	5,705	8,402	6,330	6,433	728	104
	二戸	2,899	2,158	2,651	1,961	2,170	12	209
小計	51,023	37,918	52,002	38,918	39,955	2,037	1,038	
地域病院	遠野	891	680	826	631	663	△ 17	32
	高田	277	208	350	264	303	95	39
	江刺	758	549	623	468	442	△ 108	△ 26
	千厩	1,269	966	1,148	841	888	△ 78	48
	一戸	1,029	777	887	679	718	△ 59	39
	大槌	296	222	178	139	165	△ 58	26
	山田	195	145	182	140	155	10	15
	軽米	573	428	602	447	520	93	73
	大東	154	120	184	141	130	9	△ 11
東和	518	393	490	371	423	30	52	
南光	1,313	975	1,244	936	877	△ 98	△ 59	
小計	7,273	5,464	6,713	5,056	5,283	△ 181	228	
合計	58,296	43,383	58,715	43,973	45,239	1,856	1,265	



# 医業環境の急激な悪化により地域医療崩壊の危機

- 厳しい経営環境の中、持続可能な医療提供体制を構築するため、機能分化と連携強化を推進しながら、まずは県立病院の収益の確保と費用の節減に最大限取り組む必要があります。
- 一方、病院の経営状況は、各種団体からも非常に厳しい経営状況にあることが発信されており、医療局としても、国に対し現状を訴え、地域の実情に応じた診療報酬体系や地方財政措置の充実等、必要な財政支援を要望しています。

発信団体等	経営状況に係る各種団体からの発信内容等
■ 四病院団体協議会 ・ 日本病院会 ・ 全日本病院協会 ・ 日本医療法人協会 ・ 日本精神科病院協会	[病院への緊急財政支援についての要望（令和6年10月11日付け）] ・ COVID-19の影響から始まり、 <b>経済環境や賃金の急激な変化により、病院の経営は非常に厳しい状況。</b> ・ COVID-19の流行以降、患者数が依然として回復しておらず、加えて様々な補助金が廃止されたこと、 <b>急激な人件費の増加や委託費、保守点検費用、診療材料費等の高騰への診療報酬での評価が適切にされていないために、経営が悪化し病院の存続が危ぶまれている状況。</b> ・ 地域医療の確保、さらに病院医療を守るためには、緊急的な財政支援が必要。
■ 全国自治体病院協議会 (エムスリーキャリア記事)	・ 全国自治体病院協議会会長の望月泉氏は12月12日の記者会見で、会員病院の2024年度上半期収支と通期決算見込みの調査結果（400床以上の病院では、対前年度比の医業利益が通期平均で約8億3900万円減少する見込み）を発表し、 <b>「今の診療報酬のままでいくと大変な事態が起きる。倒産する病院も出てくるのではないかと。2年を待たない診療報酬改定をお願いしたい気持ちだ」</b> と窮状を訴えた。
■ 国立大学病院長会議 (エムスリーキャリア記事)	・ 国立大学病院長会議は12月13日の記者会見で、 <b>42病院のうち32病院で2024年度の収支が赤字見込みとなり、赤字額は計281億円に上ると明らかにした。全体でも254億円の赤字見込みだ</b> という。 ・ 大鳥精司会長は、人事院勧告への対応によって人件費が42病院で計310億円増える一方、ペーパー評価料など診療報酬改定に伴う増収は117億円に留まるとの見通しを示し <b>「いくら稼働率を上げて収入を増やしても、大きな支出が覆い被さってくる。現在の構造ではとても立ち行かない」「大学病院がなくなるかもしれない次元の問題だ」</b> と窮状を訴えた。